

「創造的な仕事 (creative) をかけがえのない仲間 (crew) と共に」



株式会社 遠藤製作所

EMIDAS会員番号 72643

- 主要三品目
 - ・リニアガイド
 - ・インクジェットプリンターヘッド部品
 - ・電子顕微鏡構成部品

〒990-2251

山形県山形市立谷川二丁目485番10

TEL : 023-685-5015 FAX : 023-685-5016

E-mail : endo@endo-m.com

代表者：代表取締役 遠藤 聡

URL : <http://www.endo-m.com/index.html>

設立：1961年5月 資本金：7,000万円

従業員：50名（本社25名・第二工場25名）

リーマンショックも過ぎた頃、株式会社遠藤製作所は主要取引先からベトナムでの生産について相談を受けた。国内メーカーの海外調達が加速し、他の協力企業数社も同様の相談を受け難色を示しているなかで持ち上がってきた話だった。迷った末、同社はベトナム進出を決断。そこには、後継者問題に直面していた他企業に比べ、若くして家業に戻った四代目社長（当時専務取締役）遠藤聡氏の覚悟があった。進出は簡単では無い。場所、設備、人材、各種手続き等々、課題は沢山あったが、ものづくりは「人」だ、との思いがあった。

まずは進出準備として2011年に海外研修生制度を利用し、初めてベトナム人研修生を受け入れた。3年の研修期間終了後、現地スタッフとして採用しようというストーリーを描いてのことだった。



そして、2名のベトナム人スタッフを配属。しかし、話せる日本語は日常会話程度だ。実務レベルの会話は通じないなか、身振り手振りで仕事を教えた。まずはものづくりの原点である手作業の仕事からスタートし、バリ取り、検査業務など、四苦八苦しながらの育成であった。しかし、大きな気付きもあった。ベトナム人は非常に目が良く、顕微鏡で見なければ分からない程のバリを肉眼で見つける。更に技術の習得スピードが早く、仕事に熱心で貪欲である。言葉の壁はあるものの、実に育成しがいのある人材だった。海外進出を目指しながら仕事の海外流出という不安も否めなかったが、研修生と接している中で、今後の可能性を見つげられた。

遠藤製作所は、社員の仲間意識がとてもしっかりした企業だ。企業方針は「THE CREATIVE CREW」。「目標に対して社員一丸となって協力するには、一人一人とのコミュニケーションが大事です。仕事中はもちろん、プライベートな場面でもコミュニケーションは重要です」と遠藤社長は語る。まさに家族ぐるみの付き合いだ。プライベートでも時間を共有することは、母国を離れ生活習慣も違うベトナム人研修生にとって、日本の文化や習慣、

考え方等を知ってもらえる良い機会にもなっている。

2013年、ついにベトナム工場での生産を開始した。日本人2名、ベトナム人10名であっ

た従業員数は、現在ベトナム人30名規模に拡大している。ただし、国内の雇用を蔑ろにしている訳ではない。国内は人材が集まりづらいのだ。人材難は少子化の影響もあり更に深刻になっている。遠藤社長は「技術の継承、企業の存続を考えると、海外の労働力は魅力であり、企業を存続させる事で最終的には現在の国内雇用を守る事になる」と10年、20年後の国内雇用を守る手段として、海外の労働力を位置付けしている。

